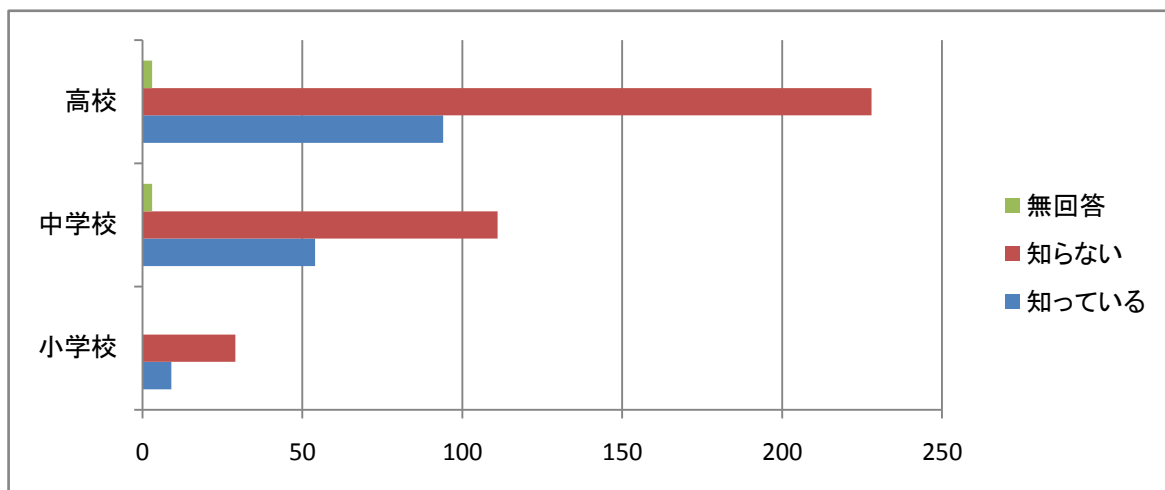


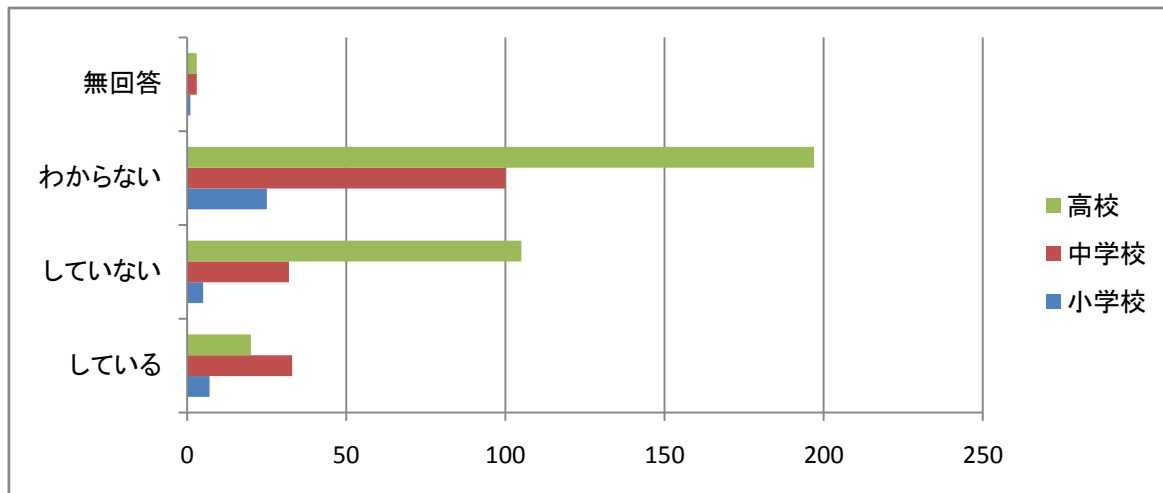
【設問10】フィルタリングを知っていますか？



<分析および考察>

フィルタリングの認知度の割合は、小学5年生では23.7%、中学2年生では32.1%、高校2年生では28.9%である。全体的に3割程度しかフィルタリングについて認知されていない実態がある。男女別にみると、小学5年生男子では26.7%、女子では21.7%、中学2年生男子では32.9%、女子では31.6%、高校2年生男子では29.5%、女子では28.4%である。いずれの学年においても携帯電話の所持者の中で、男子の方が認知度がやや高いが低水準である。携帯電話を悪用したトラブルや犯罪が増加する中で、各携帯電話販売業者においても独自のサービス等が提供されてはいるものの、青少年の認知度の結果からみると青少年への啓発等での課題があると考えられる。今後、認知度を7割程度まで高め、利用者にとって「フィルタリング」がさらに有効な手だてとなるよう課題解決に向けた具体的な取組が必要である。

【設問11】フィルタリング等のアクセス制限をしていますか？



<分析および考察>

フィルタリング等の利用状況は、小学5年生では18.4%、中学2年生では19.6%、高校2年生では6.2%である。男女別にみると、小学生5年男子では20.0%、女子では17.4%、中学2年生男子では20.5%、女子では18.9%、高校2年生男子では7.4%、女子では5.1%である。全体的には、高校生の利用状況が極端に低く、男子に比べ女子の利用状況がやや低い。また、「わからない」と答えた割合が高く、小学5年生では65.8%、中学2年生では59.5%、高校2年生では60.6%である。全体で6割前後が自身の携帯電話のフィルタリング利用状況について把握しないまま使用している状況があると考えられる。販売業者においては、各種啓発の課題や提供されているサービスや機能における問題などの要因があると考えられる。また、保護者がフィルタリングを認知しながら、子どもの携帯に有効利用していない実態があると考えられる。